

- 1 題材名 ともに考え続けよう(自由とは?)
- 2 考える価値内容 自己/世界
- 3 題材について

(1) 本題材にかかわる子どもたちの履歴 - 「死ぬこととは?」から「自由とは?」へ-

9月中旬頃からの子どもたちの学びの履歴については、評価部会の4ページ目に掲載したのでご覧いただきたい。2学期の後半は、「生物的に生きているのに、死んでいることはあり得るのか」が話題になった。この問いについては、最終的に共通理解はせずに、学期末に意見文を書いてまとめた。そして、2学期最終日に、3学期の「てつがく」で考えたいことのアンケートをとったところ、23名/28名が、「生きることとは?」について考えたいとのことだった。その上で、3学期始めに、話し合いを行ったところ、「生きるとは何かでは、考える視点が多すぎて難しい。それよりも、これから中学校や高校で、校則など様々な制約を受けて生活していく自分たちにとって、自由とは何かというテーマで考えた方が、自分たちの暮らしに役に立つと思う」という、やや声の大きな発言に対して賛同する声広がった。最終的には、22名/26名(2名欠席)という大逆転が起きた。自分の考えを素直に変えられるよさと捉えるのか、それとも、やや大きな声の発言者から自由になれない学級なのか、考え倦める場面でもあった。

(2) 子どもたちが「自由とは?」で考えてみたいと思っていることとは・・・

経緯はさておき、子どもたちはどのようなことを学びたいと考えたのであろうか。比較的多い考え方は次のようなものである。「誰か(何か)から、縛られていないと感じられるくらいの制限のもとに生きていること」、「全く何者からも制約されない自由というのは、存在するかのしれないが、それには巡りあえないだろう」、「世界の人々は、何かしら、国の決まりがあるから、完全な「自由」で生きている人はいない」、「制度や法律は、自由を奪うものである。それと共に、自分を守るものであったりする。例は、殺人である。人を殺めてはいけないという法律のおかげで、人を殺せないが、自分も殺される確率が減るということである」などが挙がっていた。特徴的なことは、自由というものを、制限があることを自明のこととして捉えており、そのことに対して特に異論もないということである。つまり、フリーダムとしての自由のイメージをもっている子どもが多いのである。リバティとしての自由、つまり、不自由な状態からの自由のような発想にも出合うように、題材をデザインしていきたい。

4 学習指導計画(6時間目/全10時間)

- (1) 「自由とは、どんなことだろうか?」という問いについて、自分の考えをノートに書く。(1時間)
- (2) 「自由」に関する本を探して読み、自由の考え方を広げる。(3時間)
- (3) 「自由とは、どんなことだろうか?」という問いについて、話し合いを通して考えを深める(3時間)
- (4) 「自由」について、意見文を書き、自己評価をする(3時間)

5 本時について

(1) 本時のねらい

- ・自由とは何かについて、自分と他者の考え方で似ていることを見つけよう。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○課題を確認する。	○前時のふり返りを読み返す。
「自由とは何か」について、自分と他者の考え方で似ていることを見つけよう。	
○話し合う。現代の生活では、到底感じる事が無い、「自由のイメージ」について話し合えるようにする。	○自由を多面的に捉えることができるようにする。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・「自由とは何か」という問いについて、自分と他者の考え方の相違点や共通点を探ろうとすることができたのか、子どもたちの学ぶ姿から、話し合いを深めたい。